スポーツ・ツーリズムを活用した地域振興策の提案―白山ろく地域を事例に―

金丸　和広　生物資源経済学研究室

1. はじめに

農村では高齢化や過疎化が進行し、石川県白山ろく地域においてもこの状況は深刻で限界集落の問題が顕在化してきており、地域の振興策が重要になっている。そこで私は、白山ろく地域のように経済的に衰退が進む地域では農林業のみでは地域の振興策には繋がらないと考え、地域振興策としてスポーツ・ツーリズム（ST[1]）に注目した。石川県白山ろく地域では近年、主力産業が１次産業から３次産業にシフトしてきており、農林業よりも観光・サービス業の比重が高くなっている。また、近隣の県における白山麓地域の観光状況では、地域の自然資源を活用した観光政策が地域の観光客の増加に繋がっている事例がある。しかし、石川県白山ろく地域では2000年代のスキー産業の衰退以降、具体的な自然資源を活用した振興策は小規模なものが多く、自然資源を有効に活用した観光政策が十分に行われていない。この状況からも地域振興策としてSTが有効であると考えた。

そこで、本研究では白山ろく地域の振興策の一つとして地域の豊富な自然資源を利用するSTの有効性について検証した。具体的には、石川県の住民を対象としたSTに関するアンケート調査を実施し、白山ろく地域の自然体感型スポーツ施設の経済価値の測定、地域におけるSTの有効性の分析、地域で行うべきSTの提案を行った。

2. 調査及び分析方法

白山ろく地域の自然体感型スポーツ施設の経済価値の測定では、居住地から観光地までの距離と旅行費用から観光地の利用価値を測定するゾーントラベルコスト法を採用した。アンケート調査[2]ではセイモアスキー場を訪問したと回答した28名の居住地や交通手段に関する情報を取得した。また、施設までの交通費を旅行費用として往復交通費が 400 円~1199円までの範囲で100円おきに8つのゾーンを設置し、それぞれのゾーンからの訪問率を訪問者数／ゾーンの総人口によって求めた。分析に必要なゾーンの総人口のデータは各市町村の人口統計を用いた。

STの有効性の分析では、アンケート調査の中で白山ろく地域の観光の魅力に関する5段階評価の質問を設け、地域に存在する自然や温泉などに対する魅力度を比較することでSTの有効性を分析した。また、交通や施設間の距離など地域観光においてアンケート回答者が不便だと感じている点に関する回答結果から地域でSTを行う上での改善点を分析した。白山ろく地域で行うべきSTの提案では、白山ろく地域で体験できる自然体感型スポーツ（スキー、登山、パラグライダーなど6種類）の認知度、体験希望の有無、一番よく観光する季節に関するアンケート調査の結果から地域で最も有効なSTを分析した。また、観光

---

[1] STとは観光庁が掲げる「地域に存在する観光資源を活用したスポーツと旅行を組み合せた新たな旅行形態」を言う。

[2] 8月23日(土)、24日(日)に石川県産業展示館4号館で開催された「いしかわ環境フェア2014」で行った。回答者数は230名、有効回答者数は229名となった。

情報の発信のあり方など、回答者が今後地域で必要だと考えている観光政策に関する回答結果から、ST をより振興させるために地域が行うべき取り組みについても分析した。

3. 分析結果・考察

白山ろく地域の自然体感型スポーツ施設の経済価値の測定について、アンケート調査から得られたデータを基に訪問率と往復の交通費の関係を分析した結果が図 1 である。図 1 の直線を用いて、セイモアスキー場の年間の経済価値は、スキー場の年間平均訪問率と訪問率がゼロの間の消費者余剰と施設利用料等の機会費用の総計で求められる。ゾーントラベルコスト法の結果、施設の経済価値は 6 億 9660 万 3000 円であると推計された。また、全国的に利用者の多い長野県の白馬八方尾根スキー場をセイモアスキー場と同規模と仮定した場合の年間のリフト券の売上額は約 3 億 7363 万 6000 円であった。このことからセイモアスキー場の利用価値は決して低い値ではないことがわかった。

ST の有効性の分析により、アンケート結果(表 1)から、白山ろく地域を観光する上での魅力は「自然」と「スポーツ」であるとわかり、ST が地域の振興策として有効であると推測された。また、問題点は「観光情報」と「交通」であると明らかになった。

白山ろく地域で行うべき ST の提案において、白山ろく地域を観光したことがない人を対象に、今後体験したいと思うスポーツについて調査した結果が表 2 である。表 2 のように自然資源を活用したラフティングやカヤックなどの「川遊び」に関心を抱いている人が多いことが見て取れる。したがって今後 ST を行っていく上で、手取川や手取川ダム湖を生かしたカヤックやラフティングの強化が有効である可能性が示唆された。地域観光の問題点の改善策に関するアンケート調査の結果からは、道の駅が現状では観光の拠点として機能できておらず、交通の質の向上が重要であると考えられた。また、表 1 で観光情報に関する魅力度が高くなかったことから観光情報の発信強化が重要であると考えられた。

４．結論

以上のことから白山ろく地域の地域振興策として地域の魅力である自然資源を最大限活用可能な ST は有効であるといえる。特に、ラフティングやカヤックなどの分野は長野県の白馬村等では既に夏の観光の目玉として取り組まれている。白山ろく地域においても地域が一体となって取り組んでいくことに期待したい。また、道の駅の整備や観光情報の発信の強化を行うことが、より良い ST による地域振興には不可欠であると考えられた。

表1　白山ろく地域の観光上の魅力

魅力度	自然	スポーツ	地域の活気	温泉、宿泊	飲食施設	農、特産物	観光情報	公共交通
5	53.6%	33.5%	1.9%	6.9%	3.9%	7.5%	3.8%	1.3%
4	37.5%	51.3%	25.8%	53.1%	39.6%	40.3%	21.4%	9.6%
3	4.8%	12.0%	46.5%	25.0%	35.7%	34.0%	42.8%	28.2%
2	0.6%	2.5%	23.2%	13.8%	19.5%	17.6%	28.9%	41.0%
1	0.0%	0.6%	2.6%	1.3%	1.3%	0.6%	3.1%	19.9%

図1 白山セイモアスキー場の交通費と訪問率の関係

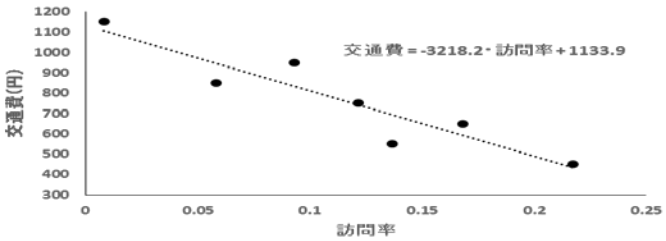

表2　観光未経験者の地域のスポーツの認知及び体験希望

	認知	体験希望
スキー	85.5%	22.0%
登山	80.0%	61.0%
川遊び	21.8%	43.9%
パラグライダー	56.4%	35.4%
サイクリング	43.6%	36.6%
キャンプ	43.6%	32.9%
全て認知	54.5%	